

映像資料リスト

No.	タイトル	撮影年月	概要
1	『花祭-三河北設楽郡にて』	昭和4～9年頃	この映像は、1930(昭和4)～1934(昭和9)年頃に撮影された映像が、編集され混在している。奥三河の人々や自然の様子、花祭における翁の舞、四ツ舞、湯ばやしの舞などが収録されている。
2	『花祭』(東京三田綱町邸)	昭和5年4月	この映像は、渋沢敬三が1930(昭和5)年4月に、東京三田綱町の渋沢自邸に愛知県北設楽郡から演者を招き、花祭り講演を行った際の記録である。
3	『飛鳥と津軽半島』	昭和6年6月上旬	この映像は、1931(昭和6)年6月に渋沢敬三一行が、山形県の日本海に浮かぶ飛鳥を一巡し、さらに青森県の津軽十三、竜飛岬を訪れた旅の記録である。
4	『昔時の運輸制度 伊那街道の中馬』	昭和6年9月	この映像は、渋沢敬三一行が、1931(昭和6)年9月に、長野県の伊那街道を訪ね、江戸時代の運輸制度である中馬に関する遺物を見つけ出すとともに、中馬を再現記録したものである。
5	「三河地方旅行」	昭和8年1月	この映像は、1933(昭和8)年1月2日～5日にかけて、渋沢敬三一行が愛知県北設楽地域、長野県下伊那地域、静岡県浜松北部地域を旅した記録である。
6	『越後三面行』	昭和8年5月	この映像は、1933(昭和8)5月に、渋沢敬三一行が、米沢を経て米坂線にて手ノ子。手の子より小国・栃倉経由で山形・新潟県境朝日連峰の秘境奥三面を訪ねた記録である。
7	「田中喜多美氏藁靴製作」	昭和8年8月	この映像は、1933(昭和8)年8月に岩手県雫石村において、田中喜多美が製作する藁靴の作成過程および同氏のブナを伐採する山仕事を記録したものである。
8	『田澤 仙岩峠 澤内』	昭和8年9月	この映像は、1933(昭和8)年9月に、渋沢敬三一行が、山形県温泉温泉より秋田県角館を経て仙岩峠越え岩手県橋場・澤地へいたる旅の記録である。
9	『十嶋鴻爪』	昭和9年5月	1934(昭和9)年5月に、渋沢敬三を団長に、アチックミュージアムのメンバーを中心に当時の第一線の研究者を集め、薩南十島を対象に学際的総合調査が行われた。この映像は、薩南十島調査の記録である。
10	『隠岐之島 景観』	昭和9年5月	1934(昭和9)年5月に行われた隠岐調査は、「薩南十島」調査終了後、直ちに島根県の隠岐島に向かうという強行軍で行われている。渋沢敬三一行は、まず隠岐島前浦郷に到着し調査を行い、さらに別府より島後都万へと渡り、島後を巡っている。この映像は隠岐調査の記録である。
11	「男鹿、能代、藤琴、石神、八戸」	昭和9年9～10月	この映像は、1934(昭和9)年9月～10月にかけて、秋田県男鹿半島から能代・藤琴・岩手県浅沢村石神(現、八幡平市)を経て青森県八戸に至る旅の記録である。途中に入るべき石神の斎藤家に関わる映像の一部が最後に収録されているなど映像に錯簡があるようだ。
12	『イタヤ細工 製作者 渡部小勝君』	昭和9年11月	この映像は、1934(昭和9)11月に、渋沢敬三自邸において、渡部小勝(秋田県仙北郡雲澤村:仙北市)が製作するイタヤ細工による箕の作成過程を記録したものである。なお、後半部に石神の斎藤善助家における糸織り作業、そば打ち作業が収録されている。
13	「桑取谷」	昭和10年2月	この映像は、1935(昭和10)年2月に、渋沢敬三一行が新潟県桑取谷を訪れ、小正月行事を記録したものである。
14	<谷浜>	昭和10年2月	この映像は、1935(昭和10)年2月に、桑取谷の小正月調査に訪れた際に、同時に記録されたようである。日本海側の漁港の情景を中心に記録されている。
15	「古志郡竹沢村角突」	昭和10年4月	この映像は、1935(昭和10)年4月に渋沢敬三一行が、新潟県古志郡竹沢村(現長岡市山古志)を訪れ、牛の角突きを調査した記録である。
16	「満州」	昭和10年4～5月	この映像は、1935(昭和10)年4月～5月にかけて、当時第一銀行の常務であった渋沢敬三が満鉄および満銀シンジケート団の一員として満洲・朝鮮を視察旅行した際の記録である。なお、この映像のもととなった16ミリフィルムは3缶伝わっているが、映像内容は、大連からはじまり、吉林丸の神戸出港となり、さらに満洲の様子に戻るという不自然な構成になっている。これは、フィルムからデジタルデータ化される際に、フィルムの1、2缶が入れ替わって2、1、3缶の順にデジタル化されたことに起因するようだ。
17	「直江津片田家行事・白萩村アワラ田植」	昭和11年1月 昭和11年6月	前半は、渋沢敬三が1936(昭和11)年1月に直江津片田家を訪ね小正月の「小豆粥」の行事を記録である。後半は、同年6月の富山県中新川郡白萩村(現在の中新川郡上市町)の胸まで泥水に浸かって田植えを行なうアワラ田での農作業の記録である。
18	《台湾 I・II》	昭和11年4月	この映像は、1936(昭和11)年4月に、アチック・ミュージアムの総合調査の事前調査として小松勝美が台湾の都市、農村を訪れた記録である。
19	『多島海探訪記』	昭和11年8月	この映像は、1936(昭和11)年8月に、渋沢敬三一行が金剛丸号に乗って、朝鮮多島海の島々(木浦港を出発、鎮島・水島・上落月島・下落月島・大許沙島・台耳島・荏子島・前曾島を経て木浦に戻る)を巡行した調査の記録である。字幕を入れ編集された作品。
20	『台湾高雄州潮州郡下 パイワン族の探訪記録』	昭和12年3～4月	この映像は、1937(昭和12)年3月～4月にかけて、宮本馨太郎、小川徹、鹿野忠雄がパイワン族の住む台湾南部山岳地帯を訪ね、調査した記録。アチック・ミュージアム編として、字幕が入れられ編集完成された作品である。撮影者は宮本馨太郎。
21	「塩飽」	昭和12年5月	この映像は、1937(昭和12)年5月に、渋沢敬三一行が岡山県児島湾の八浜を皮切りに、第3福武丸を利用して瀬戸内海の与島・岩黒島・手島・佐柳島・伊吹島・室浜・塩飽本島・豊島・男木島・女木島などの30箇所ほどの島嶼や下津井田ノ浦・坂出などの港を巡った調査の記録である。なお、タイトルは『塩飽』とあるが、塩飽諸島に限定されたものではなく、広く備讃瀬戸の島々を含む。
22	《志摩崎島》	昭和12年5月	この映像は、1937(昭和12)年5月に、渋沢敬三一行が三重県志摩崎島半島・英虞湾を訪ね、真珠養殖・海女作業などを調査した記録である。
23	(木椀の材料採取)	不明	この映像は、原木の伐採から、原木をマサカリで横木取りに裁断、材料から木椀の疎型抜き(疎取り)に至る山仕事の工程の記録である。その間、道具の紹介などが挟まれている。

・タイトルの括弧は、以下の資料によることを示す。

『』は字幕タイトル、「」は柏葉拾遺、《 》はフィルム缶、< >は1972年高木一夫氏作成リスト(渋沢史料館所蔵)

・掲載の順番は撮影年月順。

・撮影者の記載なきものは、渋沢敬三を中心に同行者による撮影。

・映像はいずれも音声なし。

・なお、このほか未整理ながら渋沢敬三家の家族映像や、昭和初期の静岡県土肥の旧家の家族映像など18巻の映像がある。